

会津地鶏の基本能力比較 (10年度・15年度)

福島県養鶏試験場経営部
平成15年度成績概要

1 部門名

畜産一鶏一畜産ほ育・育成
分類コード 07-04-40000000

2 担当者

小山有子・矢口弘子・岡崎充成

3 要旨

当場で開発・普及した「会津地鶏」、「ふくしま赤しやも」は県内各地で地域特産品として生産されている。選抜による種鶏の改良効果等を把握するため、定期的に基本能力を調査している。今年度は会津地鶏について実施し、10年度の成績と比較した。

(1) 今年度の成績(出荷適期である17週齢の成績)

育成率は雄98%、雌98%、体重は雄3.10kg、雌2.22kg、飼料要求率は雄3.55、雌 3.80であった。解体成績は120日齢の正肉割合は雄37.2%、雌34.2%であった。

(2) 平成10年度と15年度の比較(雄は14週齢、雌は17週齢の成績)

ア 飼養条件の違い

(ア) 飼育密度が高いと喧噪性が増大するので、10年度→15年度は(10羽/m²→7羽/m²、以下同じ)にした。

(イ) 肥育期(5週齢以降)の給与飼料のMEは(3,200kcal/kg→2,950kcal/kg)にした。

(ウ) 食品の安全・安心の消費者ニーズが高まっていることから、10年度は5週齢～出荷1週間前(肥育期間)まで、抗生物質入りの飼料を給与していたが、15年度は全肥育期間抗生物質の入らない飼料を給与した。

イ 10年度と15年度の飼養条件が違うので、同一基準で比較にするため、飼料摂取量から摂取したエネルギーを算出し、体重1kgあたりで比較したところ、雄は(9,326kcal→9,135kcal)、雌は(11,778kcal→11,233kcal)であったが、体重は雄が(2.63kg→2.65kg)、雌は(2.15kg→2.22kg)であった。育成率は雄雌ともに(99%→98%)であった。15年度の飼料は抗生物質が無添加であるのに加え、摂取エネルギー量が少ないにもかかわらず体重は増加傾向を示した。

4 その他の資料等

猪狩勉ら、福島県養鶏試験場研究報告No28、67-70(1999)